

いで県道沿いのバス停まで急いだ。交通整理に来ていた地元観光協会？の方から情報を仕入れると、市営芦安駐車場バス停でも大勢の登山者が待っている。『バスの時間はわからない』の絶望的な答えが。まさかの展開となってしまった。しかし、待つこと30分(8時30分頃)、突然に朗報が舞い降りてきた。



芦安バス停 ここで待つ大正解であった。

《14日》

9月シルバーウィーク初日の土曜日で、予想をはるかに上回る登山者(地元関係者談)となり計画の芦安市営駐車場まで到着できず、登山口の広河原まで行けるのか心配したが、山梨交通のご配慮(目の前を通過しようとした回送バスが臨時便になった。)により何とか計画通りの行動がとれる方向に進み始めた。



中央の山が北岳。右下の水が流れる堰堤放水路が大樺沢。〈広河原から〉

一旦はあきらめたかけた北岳であったが、計画通りの時間に広河原へ到着。
10時登山開始。広河原を出発し20分程で白根御池小屋分岐到着。いよいよここからが2時間ちょっとの急登の始まり。日差しは樹木に遮られ、時折吹く風が体に心地よい。今日の登りは、3時間と少しで山小屋着の計画だ。さあ、頑張ろう。小屋には生ビールが待っているぜ。でも、私にはしんどかった。
1日中快晴。快晴。快晴。小屋のテン場には色とりどりのテントがいっぱい。山のテントには不思議なカップルがいっぱい。眺めていると、なぜか楽しい。



御池小屋のテン場



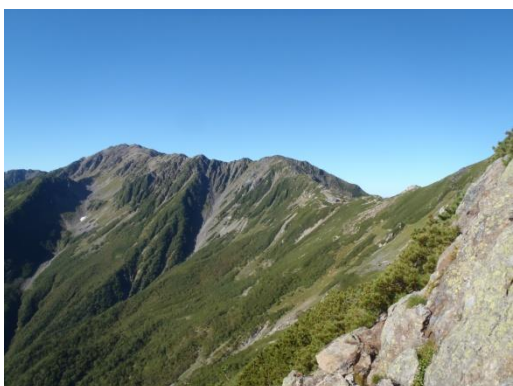
小屋前でくつろぐ二人

《15日》

2日目、今日の行程は、八本歯ノコルから北岳山荘～間ノ岳～北岳山荘の標高3000mの尾根歩きを楽しむ計画であったが、明日の下山中の時間帯に降雨の恐れが出てきたため、トラバース道分岐で時間と天気予報を確認することとして小屋を早めに出発した。二俣から左俣コースで大樺沢を登りバットレスの下あたりから梯子が連続する登山道へ入っていく。バットレスからは岩場を

登るクライマーから大きな叫び声が聞こえてくる。ザイルの解除とか確保とか叫びあっているのだろうか。誰か教えてください。

クライマーの声を聴きながら、いくつかの梯子を登りつめると八本歯ノコルの標識が目前に見える。振り向けば《愛》はないが鳳凰三山、左奥には八ヶ岳が、正面には間ノ岳～中白根山～北岳山荘につながる標高3000mの尾根が。それより、標識から身を乗り出して左手(東)を覗くと期待の“**日本一の山富士山**”がそびえています。天気も眺めも最高。でも、二又から3時間、疲れたア。尾根まで登り天気予報の確認と下山時間の確認を行った結果、明日下山時の降雨の可能性が大きいのと、広河原までの下山時間が確保できることを考慮し、下山時の安全(濡れてスリップによる転倒事故防止)を考え、間ノ岳を中止して、眺めの良い時に北岳頂上を目指し、一気に下山することとした。楽しんで登山が、いきなりハードな山行となったが、白根御池小屋からの早朝出発で時間に余裕があったため、無理せずに広河原へ下山することができた。



左が間ノ岳、右の低い場所が北岳山荘



北岳頂上で記念撮影。後は得意な降りが残るだけ。(10:00)

《終わりに思うこと》

思ったままの報告作文になってしまいましたが、山行結果は2日間天気恵まれ眺めも最高で、富士山・北岳～間ノ岳の標高3000mの稜線・甲斐駒・千丈・鳳凰・八、遠くには中央・北アルプスを眺めることができました。体調は、バットレス下のハシゴから北岳頂上にかけては体が動かずきつかったです。

でも、頂上からの降りは筋肉痛・ひざ痛もありましたが、天気も良く時間に余裕を持てたこととで、安全に全員無事下山できました。降りは最高です。

あまり山行報告作文らしくない内容になってしまいましたが、芦安から北岳・間ノ岳を計画するメンバーに伝えたいと思います。

《1つ》

北岳・間ノ岳、甲斐駒・千丈は南アルプス人気の山です。連休はどっと登山者が押し寄せます。芦安から入るなら、7月・9月の連休は避け、できるものなら平日山行を計画することが望めます。小屋もゆっくり休めます。

《2つ》

ゆっくり北岳・間ノ岳を目指すなら、1日目の泊りを白根御池小屋にすると、広河原からいきに登るより体力的にやさしい計画になります。広河原からと白根御池小屋から二俣までの時間差は2時間以上になります。白根御池小屋から二俣までは、ほとんどレベルに近いので、3時間分は楽になります。何といっても、登山は楽に登れるが最高ですよ。私も、高齢者の仲間入りはまだですが、山は無理せずゆっくり・楽しんで歩きたいものです。

山行メンバーと山行にご協力いただきました皆様に 感謝・合掌



朝焼けの北岳バットレス。大勢のクライマーが岸壁に取り付いていました。